

地域のあたたかい居場所

活動先：ふれあいネットワーク美浜

1. 活動先紹介

ふれあいネットワーク美浜は、1996年に地域にあたたかい福祉の手を届ける会として発足し通院介助・家事援助・介護講習などを行っていた。2001年には宅老所（ふれあいハウス美浜）を開所し、“助け合いの心を大切にし、困った時はお互いさま”という気持ちを大切に地域に密着した事業を行い、助け合いの輪を広めている。現在は主に宅老所、通院介助、生活支援を行っている。

● 宅老所（ふれあいハウス美浜）

野間中学校の近くにあり、毎週月曜日・木曜日と希望があれば日曜日の9：30～15：30の時間で送迎もしている。利用料は1500円（昼食・珈琲付）。現在の利用者さんは8名である。毎回スタッフさんが季節に合わせた料理をもてなしたり、懐メロを歌ったり、折り紙をしたり、普段の一人の時間での悩みや地元の話をしたりして一人ひとりの自由な時間を過ごしている。また、ヤナギやJAへの買い物にも行き、これは利用者さんの要望から始まったことで、買い物に行く利用者さんからは“週2回いいタイミングで買い物に行けて助かるわ”という声が上がっている。

● 通院介助、生活支援

病院から依頼されることが多い。介護保険などの制度の狭間で困った人への支援を行っている。

利用者さん、スタッフさん共に奥田・河和の方が多く、地域に密着したNPOとなっている。

2. 当初の活動目的や目標

<活動目的>

利用者さんと一緒に楽しめる空間づくりや、互いに認め合える関係づくりをどのように作り上げているのかを知り、そして高齢者の方や地域の方と接する中でどのような課題や願いがあるのかを探り、自分たちにしか出来ないことで問題解決を図り最終的にふれあいネットワーク美浜について地域の人に知ってもらおう。

<目標>

自分たちで企画したことを少しでも利用者さんやスタッフさんの思い出に残るように準備をしっかりとし、利用者さん・スタッフさんとのコミュニケーションと、受身にならないように積極的に自分からやることを見つけわからないことは聞く姿勢を大切にする。

3. 自分たちの活動内容

私たちは利用者さんと同じ視点で考えることとコミュニケーションを大切にし、その中で大きく6つの活動をした。

①折り紙

「とんとんずもう」を私たちから提案し、利用者さん・スタッフさんと一緒に作った。完成した相撲を箱の上に乗せ、紙相撲大会をして楽しんだ。また、利用者さんの中には折り紙の得意な方がいらっしゃって、その方から教えてもらいながら皆で作ったりもした。

②散歩を楽しむ

初めは海を散歩する予定だったのだが、熱中症に配慮し、天気がいい日に利用者さん・スタッフさんと一緒に野間大坊を散策した。

③おやつを一緒に作る

いつもスタッフさんが作ってくれているので、私たちは利用者さんにも一緒に作る楽しみを共有したくてホットケーキミックスでどら焼き作りをした。事前に中に挟むものの要望を聞き、つぶあん・こしあん・生クリームを用意し、当日スタッフさんがバナナをくれて、それを一人ひとり好きなように挟み、いただいた。利用者さんも一緒に作るというのが初めてだったようで、スタッフさんも喜んでくれた。また、これをきっかけに利用者さんの一人の方がたこ焼きプレートを持参してくれ、たこ焼き会もした。

④プロフィール作り

少しでも自分たちのことを知ってもらおうと、四つ切の画用紙に名前・出身地・好きなこと・好きな食べ物・下宿先・一言メッセージを書いて写真も自己紹介に使った。その際、出身地の話で盛り上がり家族構成について話したり、利用者さんから質問してくれたり楽しく自己紹介することができた。また、スタッフさんが画用紙をみんなが見えやすいところに掲示してくれて、普段話すときにも見ながら会話し活用することができた。

⑤通院介助の同伴する

昼前に猪口さんが通院介助に向かうので、それに一人ひとり交代で同伴させてもらった。視覚障害のある夫婦の通院介助で、病院から自宅まで送迎し昼食の準備をした。夫婦の方が会うたびに学生の存在を覚えてくれて嬉しかったと共に、制度の狭間で困っている人がいるという現状を学ぶことができた。

⑥アルバム作成

活動中に許可を得て、活動の写真を何枚か撮らせていただいてそれを最終活動日にアルバムという形にして渡した。教えていただいた折り紙や自分たちが教えた相撲も貼ったりして、工夫して作った。利用者さんにもスタッフさんにも喜んでもらった。

他にも、スタッフさんの昼食づくりを手伝わせてもらい、郷土料理や今まで食べたことのなかた“ずいき”を初めて食べ、寒天の作り方など多くの知恵を学ぶことができた。

4. 活動における問題点・課題

活動内容のなかに、活動目的で述べた空間づくりにおいて、海辺まで車で送迎し転倒に注意して浜辺を散歩するという計画があったが、天候に恵まれなかったという点もあるが利用者さんで足が悪く歩くことが辛いため行きたくない人も多かったので、利用者さんの気持ちを尊重して全員で楽しむことができる室内で行える体操や軽めの運動をもっと用意しておくべきだったという問題点が挙げられる。また、地域での認知度の低さの現状から、地域の様々な人にとっての居場所になれるようなきっかけ作りや広報活動が必要であるという課題がスタッフさんとの会話の中で挙げられた。更に身体をあまり積極的に動かさない利用者さんへの身体を動かすための誘導の仕方についての課題が残った。

5. 活動先を通して学んだこと、理解したこと、成長したこと

活動を通して、活動先の方の受身になるのではなく自分たちから積極的に行動・発言・提案し自分の存在感をアピールすることで、利用者さんやスタッフさんとのコミュニケーションがスムーズにいくことや目の前の出来事だけでなく大きな視野や全体を見渡しながらい行動することが必要だということを学ぶことができた。同時に積極的なコミュニケーションで、目的で述べたような一緒に楽しめる空間を作ることができることを学んだ。おやつ作りやアルバム作成をし、計画を実行し利用者さんに喜んでもらうための準備が十分に必要だということを改めて学べた。また、利用者さんとの会話で、人生の先輩に対し尊敬する姿勢・言葉づかいに気をつけることを学び、そこから互いに認め合える関係が生まれることを理解した。そして、利用者さんと一緒に楽しめる空間づくりや互いに存在を認め合える空間づくりが地域の方と接するうえで必要であるとわかった。何より利用者さんやスタッフさんの喜ぶ笑顔が次の活動も頑張ろうと思わせてくれ、日に日に意欲が高まったことで成長できた。ネットワーク美浜という利用者さんのみならずスタッフさんも自分らしく過ごせる空間に、私たち学生をも温かく受け入れてくれ、ネットワーク美浜は来た人へ温かい居場所を提供しているということを1番学ぶことができ、私たちはこのような居場所を地域の多くの人に知ってもらいたいと強く願う。

6. 活動先への提案

ふれあいネットワーク美浜は行政との関わりがないため、各NPO活動の方々が互いに日ごろ行っている事業などを知ってもらい悩んでいることや問題を抱えていること、行政に対しての思い・考えを伝えるきっかけとして行政と個々のN

POが関わる機会や場を少しでも増やしていけたらどうかと提案する。そのためにはまず、ふれあいネットワーク美浜の活動を地域の人に知ってもらう必要がある。地域の認知度が低い現状にあるふれあいネットワーク美浜を知ってもらうために、猪口さんと一緒に考えたことでもあるが、お茶会という場を設けそれをきっかけとして場所・雰囲気を知ってもらえれば、その後も気軽に立ち寄れるようになるのではと考えた。同時に地域の広報に紹介分を載せ、公民館などに設置してある掲示板にポスターを貼るなどより多くの人に知ってもらうことを提案する。

7. 次年度活動する学生へ

- 活動前に活動先の地域についてよく知ることで利用者さんやスタッフさんと共通の話題ができる。
- 活動に対しての不安や疑問は、同じ活動仲間や先生・活動先の方と話しながら解決することで前向きな姿勢で取り組むことができる。また、活動目的や目標を活動仲間でも共有することで、企画を考えるとときや準備するときに行動しやすい。
- 活動先の方と連絡を取るときは、活動仲間でも連絡係を決め、活動先の方の都合の良い時間を聞きそれを優先させることに気をつける。
- 活動日程と活動時間は、活動先の方と十分打ち合わせ、確認したうえで設定する。あらかじめ活動仲間でも都合の悪い日を確認し、活動先の方にそれを伝えるとスムーズに設定できる。
- 活動先のスタッフさんとのコミュニケーションの取り方については、わからないことがあるときはそのまましておくのではなく、その都度質問することや自分から“お手伝いさせてもらえませんか”や“なにかできることはありませんか”と声をかけ積極的な姿勢を大切にすることでスタッフさんとのコミュニケーションが活性化する。
- 利用者さんに関わる時は、何気なく話すだけでなく、その方の特徴や好きな話を読み取りながら話すことで話題が広がる。また、言葉づかいにも気をつける。
- 活動記録は必ず活動を行ったその日に書くことで、次の活動へ生かすことができる。
- 活動を行う前に1日の自分なりの活動目標やテーマをもって活動する。